

ブラジル チリと日本へのハスアボカド輸出に向け準備中

[FreshPlaza 2024年12月23日](#)

ブラジルはチリと日本への2025年のハスアボカド輸出に向けて植物検疫措置を準備

サンパウロ州政府の農業・供給局(SAA)農業保護調整部(CDA)は、傘下の植物防疫センター(CDSV)を通じ、2025年から検疫措置を実施する計画を発表した。この措置は、中央政府の農牧省(MAPA)国家植物検疫保護庁と輸入国の担当機関との合意に基づき、ハス種のアボカドのチリ及び日本への輸出を促進することを目的としている。

農業技師であり、州の植物検疫証明及び植物製品輸出事業の責任者であるクリスティーナ・アビ・ラチェドロスト氏は、2025年にハスアボカドの輸出が増加することを予想していると述べた。サンパウロ州がブラジルの主要産地であることから、輸出の急増は地域の総産出額を押し上げるものと期待される。

輸入国の基準を遵守するため、それぞれの国に存在しない害虫の侵入を抑制するための植物検疫措置が実施される。予定される取り組みは、チリ向けの輸出におけるアボカドシードモス(*Stenoma catenifer*)のリスク管理、日本へのチチュウカイミバエ(*Ceratitis capitata*)の流入を防ぐための果実の成熟段階のモニタリング等である。

同氏は、「これらはほ場でのモニタリングが必要な継続的な措置であるため、原産地における植物検疫証明書が要件遵守の基礎となる。CDAは、認証に基づく出荷を可能にするため、課せられた要件が遵守されていることを確保する責任がある」と述べた。

チリ向けの査察手続きは終了し、定められた期限に間に合わせるため、地域の農業保護事務所への登録が進行中である。必要な書類と手続きはCDAのウェブサイトからアクセスできる。日本向けについては、輸出手続きが策定の最終段階にあり、1月にはこれを確定して関係者に共有することとなっている。

出典: [Abrafrutas](#)

南アフリカ産リンゴがタイへのアクセスを回復し、輸出機会を拡大

[FreshPlaza 2024年12月23日](#)

南アフリカ・トゥルーケープ果実販売会社は、クリスマス直前に市場アクセスが許可されたことを受けて、リンゴを再びタイに輸出できるようになったというニュースを歓迎している。

同社の執行責任者であるロールフ・ピーナール氏は、これについての熱意を表明した。(以下「」は同氏の話)

「南アフリカが長年失っていたタイの市場に再びリンゴを輸出できるのは素晴らしいことだ。タイが極東におけるリンゴの新たな輸出先となることは、弊社の販路を大幅に強化するものである。」

ふじ、ジョヤ、ロイヤルガラなどの品種が、このタイ市場へのアクセスの恩恵を受けることとなっている。同氏はまた、ピンクレディー品種のリンゴについて将来的に良い結果を期待していると述べた。園芸業界団体のHortgroによると、南アフリカのリンゴ輸出は過去10年間で40%急増し、これは主に極東とアジアへの輸出に牽引されており、同国のリンゴ輸出全体の約35%がこの地域に向けられている。

南アフリカの業界がタイの取引業者や消費者にあらためてリンゴを紹介することを目的とした市場開拓キャンペーンを開始する準備を進める中、同氏は、中国市場と同様に、新しい市場の開拓には時間がかかることを認めている。「ニュージーランド産のリンゴは長年にわたりタイで確固たる地位を築いてきた。そのため、我々の成功を最大化するために利用できる市場機会について十分に理解する必要がある。我々は、この挑戦と、それによりタイの消費者に弊社のリンゴを提供することを心待ちにしている。」同社は現在、世界の105以上の市場にリンゴとナシを輸出している。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)